

平成30年度 宮崎県立日向工業高等学校 学校関係者評価

4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

重点目標について

- 1 人間力育成 〈生徒と教師が学び続ける学校〉
(1)生徒指導体制の確立 (2)人権・道徳・特別支援教育の充実 (3)教育環境の整備
- 2 学力養成・キャリア教育 〈生徒の夢をかなえる学校〉
(1)教育課程の工夫・改善 (2)授業改善と学力養成 (3)キャリア教育の充実
- 3 信頼される学校づくり 〈生徒が安心して通える学校〉
(1)広報活動の充実と学校公開 (2)危機管理の推進と適切な対応 (3)防災教育の推進

1 人間力育成 (1) 生徒指導体制の確立 (2) 人権・道徳・特別支援教育の充実 (3) 教育環境の整備

〈平成30年度〉

目標	努力事項(評価指標)	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由
(1)	生指	①教育活動の全領域において生徒指導の充実に努める。	・容儀面や言動で気になる生徒の情報を部内で共有し、意思統一して指導にあたるよう心掛けた。	3	4
		②社会規範を身につけさせる。	・外部からの苦情があった場合など、その都度生徒に伝え、改善した。 ・問題行動が昨年度を下回った、全体的に昨年度より落ち着いている。	3	
		③制服に自信と誇りを持った生徒の育成を行う。	・ブルーカードを渡すことが少なかった。服頭指導のイエローカードは昨年度より少ないが同程度。	3	
	進路	①学校行事を通して、社会人として必要な道徳心や力を育成する。	・職員室の入退室などの挨拶、礼の指導を日常行った。	3	
	保体	①健康診断・健康相談の実施と適切な事後措置に努める。	・健康診断、健康観察、健康相談をしっかりと実施することができた。	3	
	環美	①校内の美化に努める。	・清掃時の始まりの挨拶を行うことで指示が行き届いた。	2	
	渉回	①常時、館内に清潔感を保ち、自己管理ができる人格の育成を促す。	・全体としてルールが守られていた。履き物等についても自主的によく守られている。	3	
	教相	①生徒との日々の関わりを深め、学校生活全般における支援を行う。	・大きいじめ事案はなかったものの気になる生徒へのきめ細かな対応が更に必要である。	3	
		②保護者との連携を密にし迅速かつ適切な生徒対応を行う。	・通級の説明、教育相談の案内をし希望する保護者と面談を行った。	3	
	事務	①「自己肯定感」「自信」「主体性」の養成	・部顧問から要望の高い施設等があったが、県への許可申請や予算の面で施工できなかった。	1	
	1年	①常時、礼法指導を行い、基本的な生活習慣を身につけさせる。	・全体的にはよく出来ているが、一部の生徒ができていない。	2	
		①週に1度は生徒手帳への記入時間を設け、1週間後の見直しを持って行動させる。	・定期的に記入させている。保管場所を決めさせておいた方が良い。	2	
		①礼法指導を徹底し、実践的に発展させ、学校の中核としての役割を果たすことで、社会人としての在り方を理解させる。	・課題も多いが、良くなっている。行事などの聞く態度などは他校と比べてもよい。	2	
	2年	①礼法指導を徹底し、実践的に発展させ、学校の中核としての役割を果たすことで、社会人としての在り方を理解させる。	・課題も多いが、良くなっている。行事などの聞く態度などは他校と比べてもよい。	2	
	3年	①社会人になるための準備として、マナーと意識の向上を図る。	・服装容儀面、教室内外の整理整頓、清掃、提出物の期限厳守の指導等を行った。	3	
機械	①基本的な生活習慣の確立	・実習等の始まりには毎回話をし徹底された。	3		
電気	①基本的な生活習慣を確立させる。	・関係先生との連携を密にし、生徒の変化の早期発見に努め、生徒指導の強化を図りたい。	2		
建築	①「基本力の育成」に取り組む。	・提出物の未提出者0名であったが、実習レポートで雑なレポートが見られた。	3		
(2)	教務	①特別支援教育の充実	・教務部としてはあまり連携がとれなかった。	1	
	生指	①ネット利用におけるトラブル防止に努める。	・SNSで大きな問題は起きていない。表にでにくい面がある。	3	
		②日向ひまわり支援学校との交流を充実させる。	・例年通り充実した交流ができた。	3	
	進路	①提出する資料に配慮する。	・アンケートや調査など生徒が記入しやすいように指導し早め早めの連絡ができた。	3	
	保体	①心身ともに配慮が必要な生徒の把握と支援を行う。	・教育相談部や関係機関等と連携を図ることができ、生徒理解に努めた。講話を実施し、命の大切さを考える機会を設けた。	3	
	環美	①自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識させる。	・日常的な防災教育と抜き打ちの訓練を実施した。また、訓練に共助の要素(車椅子)を取り入れた。	3	
	渉回	①人権や障がいなどについて考える機会を設定する。	・命を大切にする週間、世界人権デー、国際障害者デー関連の展示を行った。	2	
	教相	①人権教育を推進し、豊かな人権感覚を育てる。	・計画通り実施した。日程等を来年度に向け検討する必要がある。	3	
		①特別支援教育の充実と2次障がい等の防止の取組	・特別支援委員会、通級に関する校内委員会を開催した。行動観察は予定通り実施した。	3	
	1年	①相手を思いやる、好ましい人間関係を育成する。	・家庭との連携、QUTテストの活用、個に応じた指導等を実施した。また、教育相談部と連携した。	2	
	2年	①相手を思いやる好ましい人間関係を育成する。	・教育相談部と連携をうまくとることができた。副担任にも学年会の記録を配付し共有できた。	2	
	3年	①人の痛みが分かり行動できる生徒を育てる。	・クラス、学年を越えて毎日生徒の顔を見ながら話しをした。スピーチ、進路体験発表も行った。	3	
	機械	①人権・道徳教育の推進	・教育相談部と連携を取り対応した。	3	
	建築	①生徒の状況把握を行う。	・職員間の情報共有や正副担任全員で指導を行った。	3	
	(3)	生指	①部活動の活性化を行うために施設設備の充実	・部活動加入率は80%以上を維持。活性化に伴って、施設面も充実させたい。	3
進路		①進路資料の整理と整備充実を図る。	・図書室の一角に資料展示。進路学習は職員が情報提供の場所を知って活用。	3	
保体		①学校環境衛生の整備・改善に努める。	・環境衛生検査(学期1回)を適切に実施し改善を図った。	3	
環美		①清掃時間は、全生徒・職員で取り組み教育環境の美化に努める。	・清掃場所毎にアンケートを取り、清掃しやすい環境をつくった。	2	
渉回		①生徒が自分に自信が持てるように、良いところを見つけるように心掛ける。	・多読の生徒やクラス貸し出し冊数は7ヶ月リニューで案内した。	3	
事務		①校内施設・設備の充実と有効活用	・1月末水道代は昨年漏水していたので20%減となっている。	2	
		②落ち着いて生活できる環境づくり	・先生方の執務用イス、デスクマットを交換することができた。	2	
1年		①部活動の推進	・部活動加入率は1年生は85.3%であった。	3	
2年		①学びの場としての環境整備を行う。	・昼休み予告して教室巡回指導を行った。学びの場を再認識させた。	2	
3年		①5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を身につけさせる。	・清掃活動、教室内外の整理整頓を積極的に行った。	3	
機械		①5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底	・体験入学で中学3年生が貧血で倒れた。他部署と協力して対応した。	3	
建築		①身の回りの整理整頓実施	・備品管理・整理整頓が徹底できた。	3	

2 学力養成・キャリア教育

(1) 教育課程の工夫・改善 (2) 授業改善と学力養成 (3) キャリア教育の充実

〈平成30年度〉

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由	
(1)	教務	① 教育課程の編成	・教育課程委員会において検討し、通級、総合的な探求の時間に対応した教育課程を編成することができた。	3	3	
	進路	① 基礎学力の向上を図り、進路目標を達成させる。	・公務員課外など少人数での取り組みはうまくできた、3次のまでだったが結果がでた。就職希望の内の定は年内に100%達成できなかった。	2		
		② 企業及び大学・専門学校等との連携に努める。	・講座などは行事を考えながら学年会を通してタイムリーに実施している。	2		
	環美	① 防災教育において、各教科・学科と協力し、防災の観点を取り入れてもらう。	・各教科のシラバスに防災に関する内容を記載してもらい、日常的な防災教育を行った。また、就業前（登校中）に地震・津波を想定した抜き打ちの訓練を実施した。	3		
	事務	① 学科の「特化内容」の精選と方向性の明確化	・修繕に予算が付かず学校予算でまかなっている状況であった。	2		
	1年	① 年間を通した新しいスケジュールを実行し、メリハリのある学校生活にする。	・3年目を迎えようとしているので研鑽が必要。また、時期の検討も必要。	2		
	2年	① 部活動と資格の両立に向けて連携を図る。	・課外担当者からの連絡も密に行われた。各部活動とも2年生が中心になって活動している。	3		
	機械	① 各種資格・検定取得の推進	・全体の合格率として60%近くはいている。国家資格レベルの合格率アップを目指したい。	2		
	電気	① 学科の方向性を明確にする。	・第2種電気工事士全員合格を目標とする。職員全体の組織的な取り組みが課題	3		
	建築	① 資格取得の推進	・指導体制の確立はできた。	2		
(2)	教務	① 授業改善の推進	・ICTに関する職員研修実施、全員の先生が公開授業を実施。ICTの活用については、9月～12月の利用率は60%であった。	3	3	
	生指	① 授業における礼法指導の徹底	・授業での礼法については全体的には徹底できている。	3		
	進路	① 1年次より望ましい職業観・勤労観の育成を図り、主体的進路選択能力を養う。	・キャリア教育指導については、学年に応じて計画し必要な資料を準備する必要がある。	3		
		② 生徒の個性・能力等を十分に理解し、保護者や担任との連携を密にして、きめ細かな進路指導を推進する。	・今年度も満足度調査で、本校を選んだ満足度を80%以上を維持することができた。	3		
	涉回	① 読書量を増やすことで、読解力向上を促し、学力養成に資する。	・学級文庫の導入により、本に親しむ機会が増えたが、図書館の貸出冊数は1月末現在で2434冊で昨年度からすると貸出冊数が減少している。看板等を作成し生徒の読書意欲を喚起する工夫をした。	2		
	1年	① 学ぶ意味や職業観・勤労観を能動的に構築させる。	・意識が上がらない生徒がいた。	2		
	2年	① 基礎学力養成を行う。	・2月には生徒向けガイダンスを行い、3年に向けての意識付けを行う。	2		
	3年	① 学力養成の充実と発展	・アクティブラーニングを授業へ積極的に取り入れた。授業満足度は生徒全体で58%であった。	2		
	機械	① 授業力・学力向上への取組	・研修までではできなかった。授業を工夫し、問題解決能力を少しでも育てられた。	2		
	電気	① 学力の向上を図る。	・学習の意義、必要性を認識させる必要がある。	3		
建築	① 魅力ある授業を展開する。	・ICTやALを実施する職員の割合も増えた。	3			
(3)	生指	① 社会に適応できる能力を育成する。	・各種委員会の活動は積極的に取り組んでいる。	3	4	
	進路	② ボランティア活動等に積極的に参加させ、社会貢献の意識を高める。	・様々なボランティアに積極的に取り組んで地域に貢献した。	3		
		① キャリア教育年間指導計画を推進し、校内研修の充実に努める。	・インターンシップ、教えて先輩の事業、市役所を通じて講演会など行い生徒の意識を高めることができた。	3		
	保体	① 安全管理・安全教育の推進に努める。	・救急法講習会・薬物乱用防止教室等の健康講話(年2回)を実施した。	3		
	環美	① 災害ボランティア活動を推進し、支援者としての視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する。	・7月25日(水)に「高校生防災リーダー養成研修」に生徒会3名に参加してもらい、全校朝礼で報告を行った。	3		
	涉回	① 図書館での進路指導	・資格関係の書籍を充実させることができた。	3		
	教相	① 課題を持つ生徒への適切な支援（進路指導部との連携）	・生徒の進路に関する情報提供、情報交換は行った。	2		
	1年	① 職業観・勤労観を能動的に構築できるように仕掛ける。	・セミナー講座や企業・現場見学会等への参加など能動的に職業観・勤労観を構築できた。	3		
	2年	① キャリア教育の充実	・外部講師、日向地区企業説明会は意識付けという面では効果があった。	3		
	3年	① ミスマッチがあっても乗り越えていく力の育成	・OＢと話をさせて会社の情報収集、担任主導で企業研究、また三者面談等は計画的に行われた。	3		
機械	① 進路実現への取組	・進路体験発表の実施等で、多少は進路意識を持たせることができた。	3			
電気	② 課題研究の取組	・デュアルシステムを地元企業と協力して実施することができた。	3			
	① 進路意識の定着を図る。	・1～2年生に対しては毎日のように進路情報を与え、各自の進路実現に対して意識を持たせるようにした。3年生については担任による個人面談等を行い、全員が1回目の受験で合格した。1年生の進路意識の向上を図る必要がある。	3			
建築	① 職業観・勤労観を育て、自主・自立を促す。	・現場見学会等を各学年で実施し、より高い職業観・勤労観を学ぶ機会になった。見学会を重ねる中で専門へ興味関心を抱き構築を志したいという生徒が増えてきた。	3			

3 信頼される学校づくり

(1) 広報活動の充実と学校公開 (2) 危機管理の推進と適切な対応 (3) 防災教育の推進

〈平成30年度〉

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由
(1)	教務 ① 広報活動の充実	・かわら版は6回発行した。依頼のあった中学校での高校説明会は全て対応した。	3	3	
	生指 ① 地域の人との交流を通して、礼儀作法を身につけさせる。	・交通マナーについては数件のクレームがあった。その都度教室掲示等で改善を促した。	2		
	生指 ② 学校行事や生徒会活動状況を家庭や地域へのアピールを行う。	・アピールすることはあまりしなかった。今後はHPの活用も含め検討したい。	2		
	進路 ① 企業、大学、専門学校等の進路情報を積極的に伝える。	・情報は校内LANで職員は誰でも見れる状態にしている。	3		
	保体 ① 職員及び保護者・関係機関と連携を図り、生徒の健康管理能力を高める。	・保健だよりは、予定通り毎月発行できた。 ・来室者数・・・625名（けが260名、病氣365名） 1年生・・・236名 2年生234名 3年生155名 2月 15日現在	3		
	環美 ① 防災機関との連携体制を構築し、本校の防災教育を地域に発信する。	・「地震・津波」訓練に2社の報道機関の取材を受け広く発信できた。	3		
	渉団 ① PTA活動・行事の活性化を図る。	・各行事への出席率が昨年より低下している。保護者への伝達方法を見直す必要がある。 (PTA総会の参加者は昨年と同程度) H27・・・66.8% H28・・・71.7% H29・・・70.3% H30・・・70% (PTA奉仕作業は本年度より取りやめた。) (ミニバレー大会の参加者は微増した。 H28・・・62名 H29・・・48名(台風で中止) H30・・・56名) ・PTA新聞については、遅れたが計画通り行えた。	2		
	教相 ① 教育相談に係わる事項について保護者に発信する。	・概ね実施できたが、教育相談活動に関する保護者への周知はまだ不十分である。	2		
	事務 ① 学校HP、かわら版、各通信等の工夫と改善	・学校HP、かわら版、各通信の工夫・改善、新たなポスター製作を実施した。	3		
	事務 ② 積極的な学校公開	・学校が取り上げられた広報誌や新聞などを玄関に掲載し、外部へ情報を発信できている。	3		
	1年 ① 家庭との連携を深め、協力体制を整える。	・学年通信は発行できなかった。学級通信は各HRによってばらつきがあった。	2		
	2年 ① 保護者との連携を深め、協力体制を整える。	・学年通信を各学期1回発行した。	3		
	3年 ① 学年通信を5回以上発行する。	・発行回数は7回であったが、学年団として伝えることが不十分だった。	2		
	建築 ① 学校・学科の理解促進に努める。	・出前授業に建築科職員がいつでも対応できるようにした。	3		
(2)	教務 ① 情報管理の徹底	・定期テスト前にプリントを配付し、注意喚起をした。 ・生徒の情報共有については十分共有できたと思う。	3	3	
	生指 ① 相談室と連携し、校内LANを活用した生徒の情報共有を行う。	・生徒の情報共有については十分共有できたと思う。	3		
	生指 ② 各種関係機関との連携を充実させる。	・日向・延岡警察署生活安全課との連携は十分とれた。	3		
	進路 ① 企業及び大学・専門学校とのトラブルを未然に防止する。	・情報はみんなで共有できるように資料を回覧した。	3		
	保体 ① 緊急時の校内安全体制を確立する。AEDの定期点検。	・危機管理マニュアルの見直しを含め実施できた。定期点検を行い、バッテリーやパッドの交換を行った。	3		
	環美 ① 周辺自治会、日向市関係機関との連携を密にする。	・日向市防災推進課、消防本部等と密に連携が取れた。	3		
	渉団 ① 学校図書を選定基準及び廃棄の基準は、全国学校図書館協議会を参考にする。	・図書選定委員会の実施を見直した。予算を計画的に執行できた。	3		
	教相 ① 学校いじめ防止基本方針を基に危機管理体制を整える。	・いじめ不登校対策委員会で確認はしたものの、体制を十分整えるまでには至らなかった。	3		
	事務 ① 施設・設備の「安全管理」の徹底	・危険箇所等、随時、予算要求を行い修繕に取り組めた。	2		
	1年 ① 生徒情報の管理を徹底する。	・適切な管理、処理で問題発生はなかった。	3		
	2年 ① 日向工業高校メールを適切に活用する	・100%の加入率で、修学旅行などに活用できた。	3		
	3年 ① 学年通信を5回以上発行する。	・発行回数は7回であったが、学年団として伝えることが不十分だった。	2		
	機械 ① 安全教育の徹底	・提出物の遅れはあったが、概ね徹底はできた。	3		
	電気 ① 安全管理の徹底を図る。	・実習服の着方、工具の使い方等を徹底した。	3		
建築 ① 安全管理の徹底	・安全教育については、大きな事故もなく徹底できた。	3			
(3)	生指 ① 部活動中の防災意識の向上に努める。	・定期的に部活動生集会と未加入者集会で指導した。	3	4	
	進路 ① 受験等で学校を離れた際に災害に遭遇した場合の教育を推進する。	・災害の遭遇時の知識は、避難訓練や授業の中で取り上げ意識を持つようにした。	3		
	保健 ① 防災発生時の健康管理について、情報を提供する。	・9月に「防災の日」と「救急の日」について、10～1月に「感染症予防について」に関するほけんだよりを発行することができた。	3		
	環美 ① 災害に適切に対応する能力の基礎を養う。	・防災教育に終わりに結果もない。実態に即した訓練を継続的に行う。	3		
	渉団 ① 自然災害等の影響を考える機会を設定する。	・展示コーナーを設定し、生徒に喚起することができた。	3		
	1年 ① 防災に対する備えや命の大切さについて考えさせる。	・予告なしの訓練での対応もよく、だんだんとまじめに取り組めるようになっていく。	3		
	2年 ① 防災に対する備えや命の大切さについて考えさせる。	・昨年に比べ、格段に良くなった。継続的な取り組みが必要。	3		
	3年 ① 熊本地震の経験を伝える。	・学年通信で熊本地震の被災体験を伝えることができた。	2		
	機械 ① 防災教育の徹底	・津波等における避難訓練において、ホムカガの持ち出しは確実にできた。	3		
	電気 ① 防災意識の向上を図る。	・避難経路の確認をした。	3		
建築 ① 防災意識の育成を図る。	・各分野シラバスに防災・減災に関するところを取り入れ、日常の授業で防災教育ができた。	3			